

“ 若手医師フォーラム ”



第74回国立病院総合医学会が、2020年10月17日(土)～11月14日(土)にWEB形式で開催されました。今回のテーマは「先進的イノベーションと支える医療の融合 求められる国立医療の構築～2020ときを越えて～」。多彩な講演やシンポジウムが実施される中、毎年恒例の「若手医師フォーラム」は、プレイベントとして前日の16日にWEB開催で行われました。このフォーラムは若手医師を対象としたもので、各自が取り組んできた症例や研究について発表する貴重な機会です。今回、口演発表で最優秀賞に輝いたお二人の先生に話を伺いました。なお、最優秀賞の先生には副賞として国際学会への参加費用が補助されます。



口演発表「臨床研究部門」最優秀賞 × Dr. Mayumi Matsunaga

Predictive factors for treatment outcome in children with moderate or severe atopic dermatitis

三重病院 アレルギー科 松永 真由美

応募のきっかけとテーマは？

英語でのプレゼンテーション、かつ他の分野で頑張っている同年代、または自分より若い年代の先生方と切磋琢磨できる貴重な機会だと思い応募することにしました。

今回のテーマは、アトピー性皮膚炎の予後予測です。身近な疾患でありながら、完璧なコントロールは難しく奥が深い疾患です。かゆみ、湿疹が強い中等症以上のアトピー性皮膚炎患者のどのバイオマーカーが予後予測の指標になるのかを検討しました。今回の検討では、初診時の「好酸球

数が高い」＝「炎症が強い」患者が1年後もコントロール不良というわけではない、という一見逆に思える結果が出たことがポイントです。

発表にあたり苦労したことは？

様々な分野の先生方に聞いていただく機会であるため、誰が聞いても理解できる内容を作ることを意識しました。それを限られた時間の中に詰め込むのが難しいと感じました。

英語での発表で感じたことは？

覚えた内容をそのままアウトプ

トするだけではポイントがわからず印象に残らないものになってしまうと考え、普段より抑揚をつけて発表するよう意識しました。

発表を振り返って、感想は？

「緊張した」の一言です。初めてのWebでのライブ配信だったため、相手にどのように聞こえているのかが気になりました。

医師として大切だと思うことは？

患者さんや保護者の方の表情や声に目や耳を傾けることを意識して



います。小児の場合、患者さんが正確に症状や気持ちを伝えることは難しいので、小さなことでも見落とさないようにしたいと思っています。

今後、参加する方へメッセージを

発表はもちろんですが、その準備も含めてとてもいい経験になると思います。恐れずチャレンジしてみようという気持ちを大切にしてください。

口演発表「症例報告部門」最優秀賞 × Dr. Takashi Iimori

Effective early diagnosis of the concurrence of rheumatic fever and IgA vasculitis

埼玉病院 初期臨床研修医(小児科) 飯森 崇

応募のきっかけとテーマは？

初期研修医になって最初に口演した小児科で、指導していただいていた先生からフォーラムへの参加を勧めていただいたことがきっかけです。英語での発表ということも大きなチャレンジでした。また、自分の懐を広げるために挑戦してみようと考え応募させていただきました。

テーマはIgA血管炎に合併したリウマチ熱の一例の症例報告です。「概要」としましては、2歳2カ月の女児でIgA血管炎として加療中に全身状態の悪化、移動性関節炎などの

症状からリウマチ熱を疑って早期診断・治療することができた症例であり、これまでに14例が報告されているなかでも、最年少の合併症例でした。ポイントとしてはIgA血管炎とリウマチ熱は関節炎症状などの症状が共通しており、鑑別に注意が必要であるということです。IgA血管炎の症例の場合にはリウマチ熱が合併している可能性も考慮して診断・治療を進めることの有用性を示唆しました。

発表にあたり苦労したことは？

6分という発表時間内にいかに伝

えたいことをまとめきるかということでした。小児科の先生方を中心に何度も予演会を行い、指摘を受けて修正を繰り返しました。

他の発表者から学んだことは？

それぞれの分野に対して全く前提知識のない自分が聞いても、その分野での背景や今回の報告の目的、結論などを理解できるよう発表になっていると感じました。内容に関してもそれぞれの分野の最新の知識をアップデートできるよう今後意識していこうと思いました。



将来の夢や今後の予定は？

海外で医師として従事する時期を作ればよいなど。今回のような経験を今後も重ねていって、その準備をできればと考えています。

今後、参加する方へメッセージを

英語での発表は慣れない機会だと思いますが、しっかり準備して本番に望むことは大きな経験になると思います。ぜひ挑戦してください！